



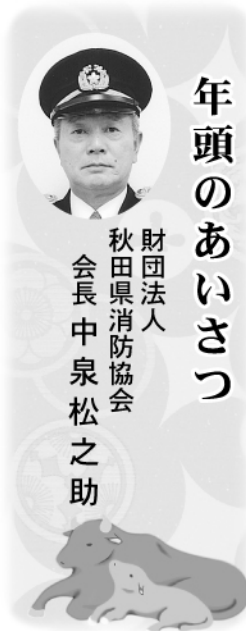
仙北市：駒ヶ岳と田沢湖



題 字
初代会長 松野 盛吉
定 価 1部 5円
(購読料は年会費に含む)
発行人
〒010-0951
秋田市山王四丁目1番2号
秋田地方総合庁舎内
秋田県消防協会
会長 中泉 松之助
電話 018-867-7320
FAX 018-863-5910
E-mail:ask@biscuit.ocn.ne.jp

印 刷
〒010-0951
秋田市山王7丁目5-29
株式会社 松原印刷社
電話 018-862-8760

年頭のあいさつ



財団法人
秋田県消防協会
会長 中泉松之助

平成二十一年の輝かしい新春を迎え、県民の皆様並びに消防関係者の皆様に謹んで年頭の御挨拶を申し上げます。

消防団員並びに消防職員の皆様には、常に消防防災の第一線にあつてあらゆる災害から県民の生命・財産を守るため昼夜を問わずの献身的な活動に対し、心からの敬意を表しますとともに深く感謝申し上げます。

さて、昨年六月に最大震度六を観測した岩手・宮城内陸地震では、道路崩壊・土砂流出等で多数の死傷者・行方不明者が発生したほか、本県でも湯沢・雄勝地区を中心に道路・農林・観光等の分野が大きな被害となりました。被災された皆様には心からお見舞い申し上げます。

このほか、昨年もここ数年の異常気象により県内各地で局地的に大雨をもたらすゲリラ豪雨や林野火災が多発して多くの被害がありました。今後とも、これら自然災害はいつ起きるのか不気味なものがあり、私達消防関係者は、日々怠りなく万全の体制での準備が肝要であります。

このようななかで第五十九回全国植樹祭が天皇・皇后両陛下の御臨席を仰ぎ、六月十五日に北秋田市の県立北欧の杜公園で開催されました。地球温暖化の防

平成二十年度全国統一防火標語

『火のしまつ 君がしなくて 誰がする』

止・国土の保全・水源の涵養などの公益的機能や、保健・レクリエーションの場などの森林の持つ多面的機能を多くの県民が改めて認識したところであります。

近年、消防団員の高齢化やサラリーマン化現象に伴い、団員の減少が全国的に進み、国では消防団員一〇〇万人確保を目指して様々な取り組みをしております。

当協会においても、県の委託で昨年度から消防団への入団促進と活性化を目指した「わがまちの消防団活性化支援事業」を実施しておりますが、本年度は初めて女性消防団ネットワーク会議を開催いたしました。

女性団員による活動事例の発表や活発な意見交換により今後の増員と活性化の期待が大いに高まったところであり、本年も女性消防職員との連携などのネットワークづくりに努めます。

さらに、昨年三月には、平成二十四年度までに県内十三消防本部を七消防本部に再編する「秋田県消防広域化推進計画」が決定されるなど、消防は大きな変革の時にありますが、私達は、将来とも本県消防防災の中核として県民の負託に応える必要があります。

当協会は、ここ数年中に新しい公益法人制度による法人への移行を目指し、その準備を進めております。これに併せてより一層の財務基盤の確立や協会運営の健全化を図ることによって、消防思想の普及・消防施設の改善・消防活動の強化で県民福祉の向上に貢献するとともに、県下二十万人の会員の皆様の福利厚生の一層の努力をいたします。

県民の皆様並びに消防関係者の皆様の御健勝と本年が災害のない平穏な年になりますことを心から祈念いたします年頭の御挨拶といたします。

平成二十一年の初春を迎えて



秋田県知事

寺田 典城

あけましておめでとうございます。

新しい年を迎えるにあたり、消防関係者の皆様にご挨拶を申し上げます。

消防団員並びに消防職員の皆様には、災害から県民の生命、身体及び財産を守るため、日頃より日夜献身的な御尽力を続けておられますことに対し、心から敬意を表し、深く感謝申し上げます。

さて、昨年を振り返ってみますと、年度当初の四月〜五月は鳥インフルエンザウイルスが検出された問題に始まり、頻発した林野火災への対応がありました。また、六月の岩手・宮城内陸地震、七月の岩手県沿岸北部を震源とする地震においては、当県からも緊急消防援助隊に出動していただいたところでもあります。消防関係者の皆様には、それぞれの災害への対応の中で、迅速かつ的確な活動を行っていただいたことに対し、心から感謝を申し上げます。

近年の社会経済情勢等の変化、地震・局地豪雨等の自然災害の多発など消防防災行政を取り巻く環境は大きく変化しております。

こうした中で、県といたしましては、市町村消防の広域化の推進、大規模災害への対応や平時における防災力の強化などに不可欠である消防団の機能強化などを推進するとともに、きめ細かな安全・安心の地域づくりや消防関係機関の皆様と連携した訓練の実施など各種施策に積極的に取り組んでまいりた

いと考えております。

皆様方におかれましては、秋田県の消防の更なる発展と、県民が安心して暮らせる安全な地域づくりのために、より一層御活躍されるよう御期待申し上げます。

本年も皆様方の益々の御活躍と御健勝を祈念いたしまして、年頭の御挨拶とさせていただきます。

年頭のあいさつ



秋田県議会議長

大野忠右工門

平成二十一年の新春を迎え、県内の消防関係者の皆様にご挨拶を申し上げます。

皆様には、常日頃より、防災の最前線にあつても所も選ばず発生する災害から県民の生命と財産を守るため、昼夜を問わず、献身的な御尽力を賜っておりますことに対し、県議会を代表いたしまして、心から敬意を表するとともに、深く感謝を申し上げます。

また、皆様の活動に御礼を申し上げます。また、皆様のご活躍を御礼申し上げます。また、皆様のご活躍を御礼申し上げます。

さて、我が国は、地形地質等の自然条件により災害が発生しやすい環境に加え、昨今の地球規模での環境変化が指摘される中、局地的に発生する集中豪雨が予期せぬ災害をもたらす、毎年全国各地で大きな被害が生じ、かけがえのない生命と貴

重な財産が奪われております。

幸いにも昨年は、台風の本県への到来はなかったものの、六月に発生しました「岩手・宮城内陸地震」は、東北各地に甚大な被害を及ぼし、本県においても県南部を中心に、住家の倒壊、生活道路の崩落など数々の被害を受けたところであり、被災された方々には、心からお見舞いを申し上げますとともに、復旧に御尽力されました関係の皆様に対し、心から感謝を申し上げます。

地域住民の安全・安心を担い、生命と財産を災害から守る消防防災活動は、常備消防の多様化してきている業務の充実強化はもとより、地域防災の中核的存在であります消防団の皆様による、「自らの地域は自らが守る」という郷土愛護の崇高な精神と強い責任感のもと、災害対応をはじめとして、各種警戒や火災予防広報、更には住民の避難誘導など多岐にわたる地域に密着した活動が、礎となつていただいております。

消防職員や消防団員の皆様は、日ごろから不測の事態に対する徹底した訓練と取組に裏打ちされた、災害時の迅速かつ適切な対応は、地域住民の安心感を培い、安全を認識させているところであり、地域にとつて他に類を見ない、最も頼りにされている組織となつていただいております。

皆様におかれましては、引き続き、地域住民が安心して暮らせる安全な地域づくりのため、今後とも一層の御精進と御尽力を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、皆様の益々の御健勝と本年が平穏な年であることを御祈念申し上げます。新年のごあいさつといたします。

年 頭 の 辞



消防庁長官

岡本

保

平成二十一年の新春を迎えるに当たり、全国の消防関係者の皆様に謹んで年頭のごあいさつを申し上げます。皆様方には、昼夜を問わず消防防災活動に御尽力いただき、心から敬意を表し、深く感謝申し上げます。

我が国の消防は、自治体消防として発足以来六十年が経過し、ひとつの区切りを迎えました。この間、制度、体制、技術等各般にわたり着実な発展を遂げ、国民の安心・安全の確保に大きな役割を果たしてまいりました。

しかし、社会経済情勢の変化とこれに伴う地域社会の変化により、災害の態様も複雑多様化し、消防防災行政を取り巻く状況は大きく変化してきております。新型インフルエンザなどの新しい感染症の発生の危機、個室ビデオ店などの新しい使用形態を一因とする火災被害の発生など、これまでは考えられなかった危機や災害の発生に備えなければなりません。また、東海地震、東南海・南海地震、首都直下地震等の切迫性が指摘されており、さらに日本各地に活断層の存在が確認され、全国どこでも大規模地震が発生する可能性を有しています。加えて消防ホースの検定に対する、信頼を揺るがす事案も発覚しました。

これら新たな危機や大規模災害の発生にも揺るぐことのない社会を構築し、国民の安心・安全を

維持向上させていくためには、行政がその役割を十分に果たさねばならないことはもちろん、住民と一体となって地域の総合的な防災力の強化を図り、全国的、広域的な見地から消防防災・危機管理体制を充実していく必要があります。

このため消防庁では、消防団の新戦力として被雇用者や学生の入団促進への働きかけなど、地域の防災力の要となる消防団の充実強化を図るとともに、自主防災組織など、地域の様々な団体との連携を推進することにより、地域における総合的な防災力の強化に取り組んでまいります。

また、大規模な災害の発生時に、迅速な応援活動を可能とするための資器材の整備、消防の広域化実現に向けた取組など、危機管理体制の充実を図るための方策や、検定制度の信頼の確保についても取り組んでまいります。

さらに、住宅用火災警報器の設置促進などの住宅防火対策、小規模でも発災すれば被害が大きくなるような施設に対する規制の強化、違反是正の徹底など、身近な生活における安心・安全の確保に取り組むとともに、救急患者の医療機関による円滑な受入を推進するなど、消防と医療の連携による救急救命体制の充実について取り組んでまいります。

皆様方におかれましては、我が国の消防の更なる発展と、国民が安心して暮らせる安全な地域づくりのために、より一層の御支援と御協力をいただきますようお願い申し上げます。

皆様方のますますの御健勝と御発展を祈念いたしまして、年頭のごあいさつとさせていただきます。

新春のご挨拶



財団法人日本消防協会

会長片山

虎之助

平成二十一年の輝かしい新春を迎え、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

全国の消防団員、消防職員の皆様が、常日頃、地域の安心・安全を守るため、日夜献身的なご尽力をされていることに対し、心から敬意を表し、深く感謝申し上げます。

さて、自治体消防制度は昨年六十周年を迎えました。この間、先人のご努力の積み重ねにより、我が国の消防は着実な発展を遂げ、今や地域住民に最も身近な防災機関として、国民から多大の信頼と期待を寄せられています。

しかし、今日、災害や事故は複雑多様化の傾向を強めており、住宅火災による焼死者が未だ多数にのぼるほか、台風、集中豪雨による風水害が後を絶たず、特に昨年は、ミャンマー連邦のサイクロン災害、中国四川省の大地震、国内でも岩手・宮城内陸地震など大きな災害が相次いで発生しました。さらなる大規模地震の発生も懸念される中、国民保護法に基づく対応など、消防の責務は、益々大きなものになっております。

とりわけ消防団は、地域防災の中核であります。これからの防災体制の強化のためには、常備消防の充実のもとより、消防団が要となつて、婦人(女性)防火クラブ、企業、各種団体、さらには

自主防災組織などを含む一般住民の皆さんによる総合的な地域防災力を充実させる必要があります。しかしながら依然として消防団員の減少傾向が続くなど、憂慮すべき状況にあります。

そのため日本消防協会では、総務省消防庁、全国の消防団とともに団員の増員確保に努力を重ねており、特に昨年は、世界初の消防団国際会議、東京ビッグサイトでの初めての全国消防操法大会、地域総合防災力展開催などで消防団のPRに努めました。最近では対前年比減少幅が少なくなりつつあるとともに県単位、消防団単位では増加しているところもみられますが、ひきつづき、関係機関、団体との協力連携のもと、全力を傾けてまいりたいと考えております。

このような中、消防活動には一層の充実強化が期待されていることから、日本消防協会では、消防ポンプのほか救助資機材等を組み込んだ消防団多機能型車両を平成十九年度と平成二十年度の二年間でモデル的に全都道府県に一台ずつ交付いたしました。

これらのさまざま活動を通じて、日本消防の更なる発展のため、本年も最善の努力をいたします。関係者のご支援ご協力をお願いします。次第であります。

最後に、全国の消防関係の皆様がますますご健健で、地域の安心安全と郷土の発展のため、一層のご活躍をいただきますよう衷心よりお祈りして年頭のごあいさつといたします。



年頭のごあいさつ



秋田県市長会会長
秋田市長
佐竹 敬久

全県消防関係者の皆様に、謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

皆様には、日夜、消防技術力の向上と土気の高揚に努められ、地域の安全と安心を守るため、全力を挙げて取り組んでおられますことに、心から敬意を表し、深く感謝を申し上げます。

さて、市町村を主体とする新たな消防制度が発足しましたのは、戦後間もない困難な時代でありましたが、これまで時代の推移に対応して、組織、設備、機能の充実強化が進められ、今日では、地域に深く根ざした消防として、住民の安全確保に大きく貢献されています。自治体消防として発足して以来六十年が過ぎた今、消防を取り巻く環境は、都市化の進展と社会構造の変化により、一層、複雑多様化しており、火災はもとより、頻発する地震や集中豪雨、突風の発生など、災害や事故の態様は明らかに変化をきていております。特に、昨今、新型インフルエンザの発生が危惧されるなど、これらは地球温暖化の進行と相まって、私たちが、これまでに経験したことのない災害発生の可能性をも示唆しているところでもあります。

幸いにして、消防に携わる皆様方におかれましては、常日頃の鍛錬はもとより、地域の方々と連携し、防災組織の強化や訓練の充実等、時代に呼応した施策展開に弛まぬ努力を重ねられ、様々な事態に対応できる体制を確立しておられますことを、大いに心

強く思う次第であります。

しかしながら、災害の形態には似ることはあっても、同じものはないといわれます。万全に備えても、災害の発生を防ぐことができない中で、被害を最小とするには、高度な機能を有した設備整備などのハード面のみならず、地域と緊密に連携した日頃からの危機管理などソフト面と合わせた総合力をいかに発揮できるかが重要であります。

関係各位におかれましては、消防広域化の推進、消防救急無線のデジタル化、国民保護法への対応など消防として対処すべき大きな課題がありますが、少子高齢化や人口減少の中で、安全・安心を第一に求める地域住民にとって、消防に寄せる信頼と期待はますます大きくなっており、その責務にしっかりと応えていく必要があります。

時々刻々と変化する社会・自然環境のもと、今後とも住民一人ひとりの安全を確保していくため、どうか皆様におかれましても、地域防災の要として、一層のご精進とご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、今年こそは平和な一年でありますことを願い、関係各位のご健勝とご発展を祈念いたします。ごあいさつといたします。

年頭にあって



秋田県消防長会
会長 石川 勝直

県内の消防関係者の皆様には、希望に満ちた平成二十一年の新年を迎えられましたことを、謹んでお

慶びを申し上げます。

平素から、火災をはじめとする各種災害から地域住民の生命、身体、財産を守るため日夜献身的に活動されている皆様に対し、心から感謝申し上げます。

昨年を振り返りますと、六月には「岩手・宮城内陸地震」や、八月末には全国各地でゲリラ豪雨が多発するなど、多くの尊い人命が失われ、改めて自然の脅威を見せつけられたところでもあります。

「岩手・宮城内陸地震」においては、本県各消防本部からも緊急消防援助隊秋田県隊を派遣し、宮城県駒ノ湯温泉の土石流災害現場で行方不明者の救出活動を行っております。

本県におきましても直下型の地震が懸念され、このような災害に対応するため、市民一人ひとりの防災意識の高揚を図り、さらに消防団が地域防災のリーダーとして、地域および事業所と連携した防災活動を活発化するため、青年層・女性層の加入促進が必要と考えます。

一方、近年の消防を取り巻く環境は、行財政改革や消防広域化の推進、住民ニーズの多様化、また新たな災害への対応として、アジアを中心に世界中で発生している鳥インフルエンザウイルスが突然変異し、容易にヒトからヒトへの感染を引き起こす「新型インフルエンザ」の発生が危惧されております。これらの課題を解決すべく県消防長会といたしましても、住民が安心して暮らせる地域社会の実現に向け、変革の時代に迅速に対応できる消防防災体制の充実強化に全力をあげ取り組んでいく所存であります。

皆様にはこうした社会の要請にこたえるべく、一層のご理解ご協力をお願い申し上げますとともに、ご家族共々のご健勝を心から祈念いたしまして、年頭のご挨拶といたします。

日消指導員研修を開催

—消防団幹部養成を目指して—



消防団の指導に当たる消防団幹部の養成を目的として、日本消防協会から秋田県消防協会が委託を受けて実施した日消指導員研修が、11月29日、30日の両日由利本荘市の秋田県消防学校で行われ、全県消防団から推薦のあった29名が参加した。

消防団員が、消防業務に携わるに当たっては、消防法の順守、消防活動全般や訓練礼式、住民指導など分野は多岐にわたっている。しかしながら、入団研修の義務づけはなく、もっぱら先輩の指導に委ねられている現状にあり、団員研修の充実は今後の大きな課題である。

このため、日本消防協会が企画したこの研修は、消防団活動の中核となっている幹部が団員指導を行うに際して極めて有効であり、今後も日本消防協会、秋田県消防協会そして消防学校が連携を図り、よりよい研修となるよう練り上げていく必要がある。





消防団多機能型車両が 能代消防団へ交付

財団法人日本消防協会が、本年度に本県に交付することになった日本初の消防団向け多機能型車両の交付が、十二月十六日に能代消防団へ伝達された。

当日は、日本消防協会の交付状が中泉秋田県消防協会長から齊藤能代市長に伝達され、齊藤能代市長からは「この車両を能代消防団の工作分団に配備して市民の生命・財産を守るために有効に活用したい」との謝辞があった。



消防団は、従来から火災現場での活動を主としてきたが、近年における災害の多様性や市町村合併による活動範囲の拡大などへの対応のため、消防団の装備の充実が求められている。日本消防協会は、日本宝くじ協会の支援で消防団向け多機能型車両を開発し、平成十九年度・二十年度の二ヶ年で全都道府県に一台モデル的に交付した。

交付された車両は、最大積載量一・五トン、四輪駆動、五速マニュアルトランスミッションを基本とし、ホース二十本以上を収納する大容量スペースを確保したほか、装備は従来の消火に必要な資器材に加え、救助活動に必要な手動式油圧カッター、エンジンカッター、チェーンソーなどが装備されている。

消防 半天・帯・団旗
優勝旗・ゼッケン
手拭・タオル・のれん
旗幕類名入染物専門

寺 田 染 工 場

横手市清川町 ☎32-0416

株式会社 タカギ

秋田県横手市寿町1番28号
TEL (0182) (32)3880

(営業種目)

日本機械自動車ポンプ	キンパイホース
トーチポンプ	シバラポンプ
各種消防機械器具	◇ 各種消火器
消防設備保守点検	

ホームページ <http://www17.ocn.ne.jp/~takagi/>
E-mail ykttkg@jasmine.ocn.ne.jp

トーチポンプ
モリタ自動車ポンプ
消防被服全般
秋田県代理店

株式会社 高義商会

(営業種目) トーチ小型動力ポンプ
モリタ自動車ポンプ
ジェットホース
消防被服全般
火災報知器各種
消火器各種



〒012-0105 本社 湯沢市川連町字万九郎屋布32
TEL(0183) (42)2125
〒012-0844 湯沢市田町 TEL(0183) (73)2588

地域の防災、災害対策に貢献!



猿田興業株式会社

秋田市山王六丁目10番9号 TEL018 (863) 1551代
猿田興業ビル7F FAX018 (824) 3651

全県消防団長研修会

― 団活動活性化を目指して ―

秋田県消防協会の本年度の新規事業の一つである「全県消防団長研修会」が、十二月二日(火)秋田市で開催され、県内消防団長ら約六十名が参加して、消防をめぐる諸問題の研究討議が熱心に行われた。この研修会は、自然災害の発生、災害や事故の複雑化・多様化、消防の広域化など地域消防が大きく変革するなかで、全県の消防団長が一堂に会した研修によって消防団運営の活性化に貢献して頂くため、日本消防協会の出前講座を活用して開催。



開 会 式



講 演

講師に招いた日本消防協会の秋本敏文理事長は、「これまでの、そしてこれからの消防」と題して「阪神・淡路大震災や地下鉄サリン事件の発生、近年の救急業務のハイペース化などによって消防防災のあり方が大きく変化しており、常備消防は本来の業務をこなし切れないでいる。消防団員の適正数の確保で全体としての消防力を低下させない仕組みづくりが今後の大きな課題である」と指摘した。

このあと、「地域住民への消防団のPRについて」を討議題に、二グループに分かれての討議が行われ、消防職員を各分団に



全 体 研 修

張り付けて業務を行う、「パートナー制度」が活動の円滑化に極めて有効であることや、増員確保の決め手は、一対一の関係で入団が決まるという実態を、また主課題である地域住民への消防団のPRについて、広報では、関係する多くの人に理解・協力してもらいながら行うことの重要性を、また、PR全般では、地道にできることから実践してゆくことの大切さなどが意見として出され、今後、それぞれの消防団が自らの地域での取り組みを確認した。

初めての消防団長研修会であったが、参加者の熱心な会議への取り組み、日本消防協会の支援で有意義な研修会となった。秋田県消防協会は、今後も、いろいろな工夫をこらしながら、この研修会を実施したいと考えている。



グ ル ー プ 研 修

森 田 ポ ン プ ラ ビ ッ ト ポ ン プ
桜ホース・ソフト吸管 消 防 被 服 一 式
各 種 消 火 器 消 防 機 器 一 式

株式会社 協 立
株式会社 能代消防センター

〒016-0846 能代市栄町12の3
TEL (0185) (52)6361
(52)6494

